

集落ぐるみのワイヤーメッシュ柵設置によるイノシシ被害対策

～鳥取市鹿野町鬼入道地区の事例～

1 取組経緯

鳥取市鹿野町鬼入道地区（18戸うち農家18戸）では、10年程前からイノシシによる水稲の食害・踏み倒し等が7月下旬から9月上旬にかけて発生しており、耕作放棄地の増加の要因になっていた。一部の農家はトタン・ネット・電気柵を個別に設置しているが、被害が恒常的に発生している状態であった。そこで、集落ぐるみで効果的な被害防止対策を実施した。

2 取組内容

- （1）集团的に防止柵を設置することについて集落内で協議し計画概要を作成した（平成18年7月）。
- （2）イノシシの生態特性・被害対策、柵設置方法等について研修会を実施した（平成19年3月：地元参加16名、市、県）。
- （3）柵設置ルートについて現地確認を行うとともに、設置方法の実習を実施した（4月）。
- （4）地元、イノシシ団でワイヤーメッシュ柵を設置した（6～7月：のべ地元20名+イノシシ団30名、総延長3,500m）。
- （5）柵設置後に防止効果を確認した（8月）。
- （6）集落で今後の柵管理について協議した（8月）。
- （7）牛、ヤギの放牧による省力的な草地管理の検討を行った（11月）。



▲地元とイノシシ団の共同作業で侵入防止柵を設置



▲牛の放牧による省力的な草地管理
新たにヤギの放牧についても試験実施

3 取組効果

- （1）柵設置後にイノシシの被害はなくなり、高い効果が実証された。
- （2）耕作を続ける区域と撤退する区域が明確になった。
- （3）近隣集落から視察が多く、同様の集落ぐるみの取組が広がった。
- （4）放牧によって管理の省力化と農村景観の改善が図られ、グリーンツーリズムによる村おこしに役立った。

【侵入防止柵等の設置位置図】



- 〈延 長〉 約3.5km
- 〈柵の高さ〉 1.2m (ワイヤーメッシュ柵)
- 〈事業費〉 約2百万円 (県1/3、市1/3、地元1/3)